



# かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報(隔月刊)8号
- 2013年1月1日発行
- 編集発行人  
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク  
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替  
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

## 認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事  
ケアサロンさくら 施設長

奥山信一さんはカメラとパイプと蒸気機関車を趣味にしていた。信一さんは学生時代に精密機械について学んだ。妻の葉子さんと出会った頃、信一さんは35ミリのカメラを肩に下げている。葉子さんは北海道の枝幸(えさし)の生まれで実家は写真館を営んでいた。葉子さんが初めて日食を見たのは昭和11年6月、3歳の時だった。実家の写真館は朝日新聞の連絡所も兼ねていて、日食を見ようと世界中から天文観測の専門家が押し寄せた。葉子さんの見た日食は北海道の枝幸から世界各地へ配信されたのだという。



サイパン金環日食  
葉子さん撮影

「夫は天体写真を撮っていました、私は星景写真の担当でした」と葉子さんは話す。

星空の写真といっても、星そのものを撮影する天体写真と、星空を風景と一緒に撮影する星景写真があるそうだ。ご夫妻が鎌倉市今泉台に越してきた昭和43年、夜空は透き通るようにきれいだったという。信一さんが望遠鏡を買おうと言いだしたのがきっかけだった。以来、夫婦で星を眺める日々が始まる。

ケアサロンさくらに来る以前は転倒骨折を繰り返した信一さんだが、利用を続けるうちにデイサービスのなかに自分の居場所を見つけていった。「帰ります」という言葉は聞かれなくなった。自分の居場所があり気のおける仲間がいるこの場所を信一さんはかつて勤めた会社と重ね合わせていたようで、デイサービスに行くのを仕事に行くと思っていた。誰だって自分を必要としてくれている場所から理由もなく「帰る」とは言わない。それどころか、職員や他の利用者さんを和ませてくれる存在になっていった。

平成24年3月初旬、信一さんは体調を崩す。患っていた前立腺がんが進行していて専門医から余命1週間と告げられた。「えっ、1週間？」聞き間違いではないかと思った。訪問診療を行っている主治医が信一さんと葉子さんの元を訪れて聞き取りをした。これまでも入院すると強制的に管を入れられてはかえって周辺症状が拡大した。落ち着ける自宅まで最後まで過ごしたいというのが信一さんと葉子さんの意向だった。急きよ、在宅での終末期をサポートするチームが編成された。チームには医療職と介護職に加えてご夫妻と同じ時代を過ごした地域住民も参加した。余命1週間なんて信じられない。信一さんの命が少しでも延びよう祈りたい気持だった。



復帰した信一さん

星に祈った甲斐があった。専門医の宣告は幸いにも外れ、宣告の翌週から信一さんは再びケアサロンさくらに復帰することになる。



## 認知症の人や家族と介護職、中高生や市民が楽しみながら交流を深めました♪

11月11日(日)鎌倉中央公園に於いてかまくら散歩が行なわれました。低気圧の接近と寒さでキャンセルも出るなか、認知症本人3名、家族1名、市民2名介護職2名、介護職や市民によるサポートスタッフ9名、鎌倉学園インターアクトクラブの中学生高校生7名、総勢24名が参加し、草花や農作業を見ながら秋の谷戸を歩きました。

途中で、もみ米を精米している様子などの農作業を見学させていただきました。中学生高校生も山崎・谷戸の会の方の説明に興味深そうに聞いていました。休憩舎では、山崎・谷戸の会の人たちが畑でとれたさつま芋をふかしてくださっていて、ホクホクのお芋をお

やつに頂きました。すっかり顔なじみになった方々もいて、小さなお子さんを連れて参加された方など、みなさんそれぞれのペースで交流を楽しんでいました。認知症の人を支えられる一方ではなく、互いに笑顔を交わしあう相互交流を体験することができました。

この日は天気予報より早めに雨が降り始めたため、記念撮影を終えると予定を切り上げて解散としました。次回は晴天に恵まれますようにと、雨降りの天を仰いでお願いをして、帰路につきました。(SA)



山崎・谷戸の会のみなさんと

- ★1月16日(水)「若年認知症支援研修会」場所:鎌倉市福祉センター第1第2会議室、18:30~20:30
- ☆1月26日(土)「認知症地域支援フォーラム」場所:鎌倉市福祉センター 10:00~15:30
- ★2月14日(木)「認知症の疾患別の理解とケア」場所:鎌倉市福祉センター第1第2会議室 18:30~20:30
- ☆3月19日(火)長編動画「毎日がアルツハイマー」場所:鎌倉市生涯学習センター(午前、午後、夜の3回上映)
- ★3月24日(日)午前「認知症の人の心、家族の心」講師:稲田秀樹、午後「かまくら散歩」春の谷戸を歩こう ダブル参加歓迎♪

### ～ 次号予告 ～

- ☆「若年認知症支援研修会」の報告  
若年期認知症ハンドブックを教材に支援制度や社会資源を学ぶ研修会
- ☆認知症介護講座「認知症の疾患別の理解とケア」の報告  
認知症の疾患を理解しケアについて考え学ぶ講座の速報
- ☆「認知症地域支援フォーラム」の報告
- ☆地域の動き、認知症ケアでつながる人々

### 1月・2月の予定

1月12日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
1月16日(水)	若年認知症支援研修会	鎌倉市福祉センター
1月24日(木)	運営会議	NPOセンター鎌倉
2月9日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
2月14日(木)	認知症の疾患別の理解とケア	鎌倉市福祉センター
2月20日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉

★会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。また、毎号イベントの写真はケアマネジャーの出口慎一氏より提供頂いています。(稲田)

### 鎌倉市との協働事業

## 認知症相談事業(予約制)

専門職の有資格者が症状の背景や介護の仕方について分かりやすく説明!

・・・かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています・・・

1月12日(土)  
鎌倉市役所  
13:30~16:30

2月9日(土)  
鎌倉市役所  
13:30~16:30

お問合せ・相談のご予約は、鎌倉市役所 市民健康課まで  
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30~17:15)

## 入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい

～ 資料をお送りいたします ～

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局  
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

### 会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
  2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
  3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)
- ※申込書送付後、年会費をお振り込みください。  
郵便振込口座 00240-8-140587  
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク



## 鎌倉学園インターアクトクラブにつきまして 顧問 田島克弘



鎌倉学園インターアクトクラブは、2009年に活動を始めた、まだ歴史の浅いボランティアクラブです。部員は中学生7名、高校生13名。現在は清掃奉仕活動を中心に活動をしています。

活動の内容は通学路清掃だけでなく、海岸のクギ・ガラスの除去、観光標識の苔落とし、高架や地下道の美化、環境と安全を守るための活動が中心です。その他にも募金活動や福祉施設の訪問、防犯活動、リサイクル容器推進活動にも参加させて頂いています。最近では、庭の掃除など高齢者のお宅のお手伝いをさせてもらうこともあります。

これらの活動は、鎌倉に拠点を置くボランティアの先輩方とのつながりがあって始めることができたものです。今後も、ボランティア団体や公共機関とも連携しながら経験を深めていこうと考えています。

「かまくら散歩」には平成24年6月から参加させて頂いています。最初は戸惑って行列についていただけだった生徒も、参加した方に声をかけていただいたり、認知症の方とのふれあい体験を通して、少しずつ打ち解けてきたように思います。四季の花を楽しみながらの散歩は、学生にとっても安らぎの時間になったのではないのでしょうか。

最近では認知症の方にかぎらず、高齢者の方と接する機会の少ない生徒が増えているように思います。こうしたふれあいを通して、生徒たちが普段の生活や人との関わり方を見直す良い機会になればと思っています。



地域の動き 映画「毎日がアルツハイマー」試写会 NPOセンター鎌倉 鎌倉市

12月12日(水)、NPOセンター鎌倉の会議室にて、映画「毎日がアルツハイマー」の試写会が『鎌倉で映画と共に歩む会』『かまくりんどうの会』『かまから認知症ネットワーク』の3団体12名が参加して行われました。

映画はアルツハイマー型認知症の母と同居することになった映画監督の関口祐加さんがホームビデオ風に撮影した記録映像で構成され、認知症の診断からひきこもりの日常、介護サービスの利用の模索(本人はまるでその気なしですが)という内容です。「良妻賢母の見本のような人であったお母さんがアルツハイマー

になったことによって解放された」と監督自身が語っているように、お母様の破天荒な言動行動に試写会の会場も笑い(気持の通じ合うような笑い)が絶えませんでした。仰天の連続であったにもかかわらず、映画が終わった後は、心が温まったような印象がありました。「本当に爽やかな温かい映画でした」と介護家族でもある参加者の一人が感想を寄せてくれました。

映画は3月19日(火)に鎌倉生涯学習センターにて上映、11:00、14:00、18:40の3回でトークもあります。(IN)



地域の動き 「かまくら認知症ネットワーク運営スタッフ会議」 NPOセンター鎌倉 鎌倉市

かまくら認知症ネットワークでは毎月1回運営スタッフ会議(以下運営会議)を開催しています。現在運営スタッフは25名、「相談」「支援」「広報」「研修」「まちづくり」の5つの部会にわかれ、会議以外でも必要に応じてメールで情報を共有しながら活動しています。

11月21日(水) NPOセンター鎌倉で18時半から行われた会議には18名のスタッフが参加して、これから実施される活動等について説明がありました。

今年度の活動予定は1/16(水)「若年認知症支援研修

会」、2/14(木)「認知症の疾患別の理解とケア」、3/19(火)映画「毎日がアルツハイマー」上映会、3/24(日)介護講座「認知症の人の心、家族の心」と同時開催の「かまから散歩」があります。

現在の会員数は107名、認知症ケアの資質向上や地域支援の充実へ向けた活動が続きます。新規会員募集中!会報封筒詰め作業のお手伝いや運営スタッフも募集しています。(TN)



～若年認知症の本人・家族支援の充実へ向けた取り組みをご紹介します～  
「若年期認知症ハンドブック」編集・発行:公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

認知症の人と家族の会神奈川県支部からフルカラー48頁の「若年期認知症ハンドブック」(500円)が刊行されました。若年認知症の支援に課題があることは以前より言われていることですが、なかなか解決のめどが立ちません。認知症の人と家族の会神奈川県支部の杉山孝博代表も、ハンドブックのなかで「家庭、経済、就労、子育て、介護環境などの様々な面で困窮するケースが多く、支援策の充実が必要」と書いています。

早期発見・早期診断がされても支援制度につながらなければ困難は増すばかり。このようなハンドブックを作ったのも、家族の会の人たちが困難な状況を支え合いながら打開してきた経験を多くの人たちに届けたいとの思いがあったからだそうです。ハンドブックを開くと、介護保険の仕組みや障害福祉サービスの仕組みの解説があり、また、認知症と診断されると医療費の助成が受けられる自立支援医療という制度や、障害年金の手続き、生命保険や住宅ローンの減免措置についてまで、細かに解説されています。

かまくら認知症ネットワークでは、多岐にわたる支援制度の情報を関係者が理解し、必要に応じて活用できるよう準備をしておく必要があると考えて、1月16日(水)に「若年認知症支援研修会」を開催します(18:30～福祉センター第1第2会議室)。当日は『若年期認知症ハンドブック』を教材に用います。実際に様々な支援制度を活用してきた若年認知症の介護家族の方々の話を聞きながら体験的に学ぶ試みです。ハンドブックは研修参加者には1冊配布となります。お問い合わせは0467-47-6685事務局まで。(IN)



地域の動き 「高齢期のこころと認知症の理解」 深沢学習センターホール 鎌倉市

12月4日(火)、鎌倉市深沢学習センターホールにて、シニアの健康づくり講座『高齢期の心と認知症の理解』が行われました。講座の参加者は35名でした。講師は9月に当会で「認知症と薬」のお話をして頂いた横浜市立大学付属市民総合医療センターの小田原俊成先生でした。

この講座は、高齢期を新たな人生の一步を踏み出す時期と捉えて、心身の老化や病気などについて学ぶことで閉じこもりを防止したり、うつや認知症の予防に役立ててもらうために開催されました。

講座終了後のアンケートには「高齢者の特徴がわかりやすく聞けた」「専門用語をわかりやすく解説して

くれた」等わかりやすかったとの回答が多くありました。また参加者が日頃から心がけていることは?という問いには、「家族友人とお喋りをしている」「地域活動へ参加している」などの答えがありました。

講座を主催した鎌倉市市民健康課によれば、この度の講座は身近な地域での支え合い活動を行う、「鎌倉市地域サポーター養成講座」を兼ねて実施されたということです。

市民一人一人が高齢期に多い病気を理解し、経験や知識をいろいろな場で活かしていくことができると良いと感じました。(NS)



地域の動き 「認知症疾患医療連絡協議会研修会」 ウェルシティ市民プラザ 横須賀市

11月17日(土)14時～16時、横須賀市のウェルシティ市民プラザにて「認知症疾患医療連絡協議会」主催の「認知症研修会」が開催され、横須賀市を中心に周辺の各市町から約170名の参加がありました。

当研修会は、認知症医療・介護の分野で著名なお二人による講演で構成され、第1部は正常圧水頭症治療で有名な「横浜栄共済病院」副院長の北村佳久先生の講演、第2部が三浦市の老人保健施設「なのはな苑」看護部長の松浦美千代先生の講演でした。

第1部での北村先生は、「治る認知症・正常圧水頭症」をテーマに話をされ、「シャント術」と呼ばれる治療法の他、介護に関わる者が持つべき知識、心構えについ

て分かりやすく解説していただきました。

第2部での松浦先生のお話は、「認知症患者の非薬物療法」というテーマでした。実際に2人の入所者の事例を上げて、なのはな苑で行われている「認知症患者の“思い・願い”をチームで探索し、本人尊重・本人本位の介護・看護の望まれる姿(アセスメント方式)を解説していただきました。限られた時間にもかかわらず素人分かりする大変内容の濃い講演会でした。

※認知症疾患医療連絡協議会は横須賀三浦逗葉地区での認知症に関連する連携を図るために設立された組織で、久里浜医療センターの中に設置されています。(TS)



地域の動き 「いきいき介護フェア 2012」 鎌倉市生涯学習センター 鎌倉市

11月17日(土)、介護保険の仕組みやサービス内容、介護予防などについて市民に知ってもらうために、鎌倉市生涯学習センターに於いて、鎌倉市主催「いきいき介護フェア2012」が行われました。

当日は鎌倉市内の介護事業者が参加して、パネル展示による各種サービスや事業所の紹介、福祉用具展示、健康チェック、介護教室などが行われました。

食を通じて高齢者のこころとからだを考える講座(食支援サポーター養成講座)では、ドクターゴン診療所の栗原大輔医師が「高齢者のこころとからだ」というテーマで、胃ろうを増設した高齢者の事例を紹介しながら、日常生活の質を高める実践の大切さをわかりやすく話してくれました。

「認知症とは?」というテーマのパネル展示コーナーでは「普通の物忘れと認知症の物忘れ」「認知症の原因、特徴、症状」について解説がされていました。そしてすぐ横の会場では若年性認知症の当事者の登場するビデオ上映も行われていました。ビデオを見たひとは「若年性認知症の本人の思いを知ることができ、貴重な経験となった」と話してくれました。

現在「65歳以上の高齢者の約10人に1人が認知症」といわれます。介護サービスを利用する人だけでなく、今後は市民のひとりひとりが認知症を理解しておく必要があると感じました。(IN)

